

授業科目 倫理とモラル

【担当教員名】 栗原 隆	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・義肢・臨床・健康・スポ・社会・看護・情報
	開講時期	後期	必修選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
○	◎	◎	○	

【概要・一般目標：G10】

倫理学とは、道徳心を涵養する学問でも、徳目を覚える学問でもありません。日常を振り返って、習慣や常識そして習わしとされていることについて、本当にそうだろうかと考えて、無意識的な行動を、自覚的にすることこそ倫理の意義なのです。この授業では、そうした何となく立ち振る舞っていた行動を、本当にそうなのかどうか、検証することを通して、多様な価値観の中、しかも経済効率が優先されて、個人主義や自由主義が当然だとされることによって、混乱に陥った「現代」を生きてゆくことを、自覚化したいと思えます。

【学習目標】

<俺はこういう人間なんだ>とか、<私は人に迷惑をかけることなく、私の自由を正当に行行使して、正しいことしかしていません>という硬直したものの見方を退け、<人それぞれでいいじゃないか>という偽善的で虚無的な相対主義にはまらないようにしながら、倫理的な葛藤状況に行き当たった場合、本当にどうするべきか、改めて考えたいと思えます。

例えば、<決して嘘をついてはならない>という倫理規範には、皆さんが同意するでしょう。しかし、他方で<嘘も方便>という行動指針にも、皆さんは同意するでしょう。デートからの帰り道、別れ際に、それほど楽しかったわけでも、盛り上がったわけでも、心が打ち解けたわけでもないのに、「有り難う、楽しかったわ、またね」と言ったとしたら、それは「挨拶」なのでしょうか、「礼儀」なのでしょうか、「社交辞令」なのでしょうか、それとも嘘なのでしょうか？

世の中には嘘が満ち満ちています。「自分のやりたいことを見つけて、それを実現しよう」なんて助言ほど、無責任でいい加減なものはありません。だって、授業中に<やりたい>からといって、携帯電話でメールを打ったり、おやつを食べ始めたり、果てはお喋りを始めたり…そう、人間はやりたいことばかりをやっていたら、オシマイなんです。この授業は、そうした嘘を見分ける力をつけるにはいかもかもしれません。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	授業全体へのガイダンス——<覚えること>よりも<考えること>が大切なのだ		担当：栗原 隆
2	みんなが自分の幸福の実現を目指しているのに、エゴイズムはなぜいけないのか？		担当：栗原 隆
3	私たちは、自分のしたいことをして構わないでしょう？		担当：栗原 隆
4	信頼こそが大切なのに、どうして私たちは<共倒れ>に向かおうとするのだろうか？		担当：栗原 隆
5	私たちの身体は自分のものなのでしょうか？		担当：栗原 隆
6	私たちは本当のことを語らなければならないのか？		担当：栗原 隆
7	私たちが他人に共感するのはどのようにしてか？		担当：栗原 隆
8	私たちは希少資源をどのように配分するべきか？		担当：栗原 隆
9	生殖補助医療で対処できることは、患者の要望に応じて臨床応用しても構わないのか？		担当：栗原 隆
10	脳死からの臓器移植と、臓器売買を考える。		担当：栗原 隆
11	私たちは命を創り出すことができるか？		担当：栗原 隆
12	私たちは、運命と神に任せられていた<死>を、人間の判断で決定するところに来ている！		担当：栗原 隆
13	大人になるとはどのようなことか？		担当：栗原 隆
14	新潟の被った環境破壊を考える。		担当：栗原 隆
15	私たちは将来の世代に責務を負うか？		担当：栗原 隆
16	テストをします		担当：栗原 隆

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	現代を生きてゆくための倫理学	栗原隆	ナカニシヤ出版	2010・2,600円
参考書				
その他の資料				

【評価方法】	【履修上の留意点】
100点満点のテストで評価します。テストは、教科書、自筆のノート並びに配布資料など、勉強に関係あるものは「持ち込み可」です。	授業中の「私語」あるいは、いわゆる「内職」については、厳に慎んでください。身のまわりにあふれている倫理の問題を改めて考えてみたい方の受講を望みます。「決まり」で定まっているからそうする、というのではなく、どうしてそうした「決まり」になっているのか考えてみることを通してこそ、自覚的な判断ができるようになるからです。 授業に際しては、覚えるというよりも、考えていただきたく願っています。確かに、現場対応のスキルを身につけることは大切です。しかし、千変万化、多様な現場にあって判断する際に必要なのは、考える力や判断力だからです。この授業では、そうした判断力を涵養することを目指したいと思えます。